



1



2



7



8



- 1 地方紙まで揃う新聞コーナーの一角
- 2 旅行先の情報も一目で
- 3 レトロなカフェテリアと眺めは三ツ星
- 4 東京オリンピックの企画展示
- 5 質感のよい本棚は東京都は多摩の木材でつくられている
- 6 地下下では大勢の職員が図書館業務を支えています
- 7 一流の技術者が和本の修復にたずさわっている
- 8 歴代の製本機は圧巻
- 9 都内一美しいアプローチ



3



6



5



4

都立中央図書館

庭園にひらかれた知の宝庫

麻布でも最大級の公園が有栖川宮記念公園である。広尾駅から2分という立地から、多くの人が憩い、また周辺に住む各国の子供たちの絶好の遊び場にもなっている一方、ふるめかしい恩賜公園の名が示すとおり、品格あるたたずまいは他の公園とは一線を画している。

池に面する公園入口からはいった高低を生かした庭園のなかほどは、鬱蒼とした森の如くだが、木漏れ日の美しい小道をのぼると林となり、視界が開ける。正面が中央図書館である。

都立図書館は百年の歴史をもち、この中央図書館には約166万冊の図書、新聞雑誌7,000タイトルと収集した資料が豊富にある。資料の個人館外貸し出しは行っていないものの、その利用価値は学究の徒はもちろん一般人にも無限大だ。

すべての分野の図書があるのはもちろん、現代の要請にもこたえられるよう無料で使える各種データベースや無線LANも備わっており、検索も容易だ。本を自分で探す自信のない場合は、司書に声をかければ適した資料を探し出してくれる。学術資料以外でも、たとえばちょっとした旅行先の都市や探しているレシピ、好きな絵の載っている画集、気になっているブランドの最新情報も簡単に手に入れることができる。人はすべての専門家ではありえないからこそ、司書の存在がある。気軽に声をかけて活用してほしい。

特に目的がないときでも屈指のタイトル数を誇る美術書や雑誌を眺められる。座席も約900席あるためゆったりと目をとおせるだろう。都民のための企画展示も随時行われており、他に医療法律等各種講演も主催して一般に開放しているのでこれに参加するのもお勧めだ。

疲れたら5階のカフェテリアで食事やお茶は如何だろう。良心的な価格で庭園の緑を見ながらくつろげる。身近に存在するものの、忙しい社会人になると縁遠いものになりがちなのは図書館だが、一般人にこそふらりと訪れてほしいのがこの楽しみの宝庫、中央図書館である。

身近に存在するものの、忙しい社会人になると縁遠いものになりがちなのは図書館だが、一般人にこそふらりと訪れてほしいのがこの楽しみの宝庫、中央図書館である。

身近に存在するものの、忙しい社会人になると縁遠いものになりがちなのは図書館だが、一般人にこそふらりと訪れてほしいのがこの楽しみの宝庫、中央図書館である。



9



麻布 びと

昨年 2008 年は、紫式部が「源氏物語」を著してから 1,000 年経ったといわれる千年紀。ゆかりの地ではさまざまなイベントが繰り広げられたが、「源氏物語」の描写の中には「香」に関する記述が度々登場する。最近日本では和の文化が見直されその中でも静かなブームになりつつあるのがお香。1983 年より麻布十番で「麻布 香雅堂」を営む山田眞裕さん (58) は、京都御所西で、香木・薫香原料の輸入卸元の七代目の次男として生まれた。香道という日本独自のゆかしく知的な伝統文化を、現在は麻布の地から伝道している。



麻布から「香の世界」へ

麻布に開業して 26 年。京都の生まれ育ちです。家は江戸時代から香木やお香の原料を卸しています。香木というのは昔から輸入品で、出島でしか交易ができない時代は武家が争って質のいい香木を入手しに行くわけですよ。香木は漢方薬でもあり、心肺機能や循環器にも良い薬なんです。だから薬種商でもあった。門前の小僧で、何の関心もなかったけれど、今にして思えばひじょうに貴重で高価な香木がごろごろしているようなところで生まれ育っていたのですね。品質の良し悪しが当たり前のようにわかる…これはそういう家に生まれ育ったおかげだと思います。中学・高校時代はテニスや演劇など部活を 3 つも掛け持ちして特に香道の修行はしていません。兄が慶応大学で東京に来ていて、慶応を落ちたら恥ずかしいので早稲田へ(笑)。特に何も考えず政治経済学部の経済に入りました。卒業間近になって京都のおふくろさんに「よそさんのご飯食べてきた方がええんとちゃうか」と言われて(笑)。全然考えてもいなかったんですけど、おふくろさんのことは好きだったので、なら「そうしょかー」という感じでいきなり就職しようということになったんです。

具体的な希望先がなかった山田さんが選んだ企業は自動車ディーラーの「ヤナセ」。車に関心はなかったが、たまたま下宿先にあったひじょうに性能のいいオイルヒーターを扱っていたのがヤナセだったから。今天然素材にこだわり本物だけを扱う山田さんらしさを感じるエピソードである。腰掛のつもりで入った会社だったが、輸入販売会社の文書課という会社組織全体を動かしていく仕事が集約された部署で結局 6 年。退職希望を出してから 2 年掛かり重責を全うしてから一度京都へ。

2、3年で辞めるという感じだったのですが、仕事って始めると楽しくなってきますからね。入って 1 年目で社内報の編集長をやれと言われて…。といってもひとりしかいないんです(笑)。何も経験もないところをいきなりですから「しばらく印刷会社に勤めさせてくれ」といって 2 週間印刷会社に直行直帰。印刷の全工程を勉強しました。そこは文書課なので国際契約の法律的な裏付けなども私がやるようになっていたのですが、なんとか辞めて…。何年も前から母は私に東京で独立させたいと思っていてあちこち探してくれていたんです。この街を選んだのはカンですね。麻布十番という街は古いものと新しいものが渾然一体となっている雰囲気があるのです。これはひじょうに面白いなと思って…。なんとなくしっくりくるものがあった。それでここに決めました。

1983 年香雅堂を開業。香は室町時代に茶道・華道と並び香道という芸道となった。香道をたしなむには礼儀作法や古典文学などのさまざまな素養も必要とされ幼い頃から自然とそれを身に付けた山田さん。専門家として溢れんばかりの知識をお持ちである。

奈良の薬師寺が、500 年程途絶えていたある儀式を復興しようと。その結果「最勝会(註 1)」という法要が 2003 年に復元されました。天皇が命じる法要でお香も提供していたのですが、そのお香の調合を、当時の薬師寺の管主が「あんたやってみるか?」と(笑)…。宮中には昔から御香所という役目があったのですね。法要の典拠となる「金光明最勝王経」というお経の中にはこういうお香を焚くということが書かれているのですが、そのままだと匂いが強いので管主さんの「さっぱり系の香りがええなあ」ということでアレンジしたものを作りました。見事な法要で大変貴重な体験でした。仏教とともに日本に伝来したお香は平安時代に楽しむものへと変化していきます。自分好みの香りを身に付けること。それが自分と言う人間をより良く見せる、自分はこういう趣味を持っている人間だとアピールする。自分の美意識を充たすために香りをを用いるということだったと思いますね。

複雑で敷居が高い感が否めない香道であるが、山田さんは麻布香雅堂で初心者向けの気軽な体験香席を定期的に開催している。現在は麻布十番商店街の理事も務め、会社員時代に文書課で発揮された才能は現在地元の広報誌「十番だより」に生かされている。

東町小学校の PTA 会長をやっていました。私中途半端なことはできない性質なんです。引き受けたらしよ

上：ナショナルトラスト運動を支援している「HENRO(遍路)シリーズ」自然素材にこだわったスティックタイプのお香である

下：合成保存料や化学染料はおろか、香木以外の天然香料さえ一切含まない手作り香「麻布シリーズ」の「雲の波」



うがないと…時間も取られましたが楽しかったですね。子どもを地域が育てるということは大事ですね。子ども一人ひとりの顔がはつきりと識別できるような地域…これがひとつの理想だと思います。近隣の PTA 会長仲間もでき、いちばんの功績は当時その会長仲間と「カイチョーズ」というロックバンドを作った(笑)。ステージは踏みましたねえ(笑)。会長挨拶なんてしょーもない、では一曲と…。港区教育委員会公認バンドですからね。この人たちを通じてこの街のことに関るようになってきました。今関心があるのは、例えばカンボジアに井戸を掘ることがとてもいいことだとわかっていても私には行けない現実がある。だったらこういう活動をお香で支援できないかと。イギリスで生れたナショナルトラスト運動(註 2)というのがあるのですが、その活動に共感して画家の小野琢正氏と今回この「HENRO(遍路)シリーズ」という商品を作りました。この収益の一部が日本・イギリスの自然環境や歴史的建造物の保護運動に役立てられるようになっています。お香を広め、お香で世の中のためになることを支援していけたらと思いますね。

以前宮尾登美子の「伽羅の香」という小説を読んだことがあった。宮尾作品は女性が何かを極めていく姿を描く作品が多いが、この主人公が極めていくものは「香道」。読んだ時に香道をたしなむ世界の言葉や約束事、その優美な難解さに恥かしながらめまいを覚えたことがある。しかし香と文学を結びつけ遊びを作り上げた日本人に生れて誇らしいとも思った。山田さんのお話を聞いて道を繋げていく丁寧な根拠と何か潔さを感じた。次へ渡す潔さがなければやはり「継承」はできないのだろう。山田さんのブログを読むとプロフィールに「信念 伝統は常に斬新である」。納得の一言である。

(註 1) 日本三大会(南京三會)と呼ばれた法要の一つ。国家安泰や五穀豊穡などを願う国民の幸せを願う法会。薬師寺の大講堂が天禄 4 年に焼失し、再建の建物も享禄元年に焼けて以来最勝会も途絶えていた。最勝会が大講堂の復興と共に長年の悲願の復活を果たしたのが 500 年振りの平成 15 年。

(註 2) 1895 年にイギリスで生れた市民運動。美しい自然や貴重な歴史的建造物を次世代に残すことを目的とした環境保護運動。



「自分の内にあるものを味わうことです」

麻布香雅堂店主 山田眞裕さん(58)



生命力あふれる緑とわが孫、初夏の有栖川宮記念公園を堪能

日差しも夏めくこの時節、緑はますます濃さを増し、公園は自然のパワーであふれています。傍らにはベビーカーに乗った幼い孫、今回のあ

陽の降り注ぐ広場を過ぎると、砂場や遊具が見えてきます。④ 木漏れ日の中、子どもはしばらくプレイタイム。⑤ 幼い子ども達の活気あふれる姿は、見ていただけでも元気をもらえます。ガード付ブランコならヨチヨチさんでも安全に乗れますね。⑥ ランチタイムは、図書館前の芝生でのんびりお弁当をひろげるのもいいですが、⑦ 麻布運動場側のベンチなら野球やテニスを観戦(?)しながら、ゆっくり休憩できます。⑧ 帰りは図書館脇を通って愛育病院方面に出るのもよし、⑨ グラウンド脇の遊歩道を通って元麻布方面に出るのもよし。⑩ 愛らしい子どもと一緒に木々の息吹を感じながら、最後まで心やすく時間を過ごせます。



ざぶざぶは「おばあちゃんと孫で行く有栖川宮記念公園」です。① ベビーカーで有栖川宮記念公園を散策するなら、階段を避けるために、坂の上の入口から入ることをお勧めします。愛育病院脇から入園すると、すぐにうっそうと茂った緑のアーチ。初夏の日差しをさえぎり、涼を感じる木陰に出会えます。思わず駆け出す子どもの視線にあるのは、道脇の小花や野草。② 公園内は立木の間を多くの野草が埋め尽くし、その種類も多彩です。興味があればカメラで撮影しておき、子どもが寝た時間に園内にある都立中央図書館で調べてもいいですね(都立中央図書館は騒がなければベビーカーでの入館も可能で、オムツ替えスペースも新設されました)。③



この時期、子どもと一緒に公園散策には、暑さ対策など事前準備を忘れずに。

- 公園散策時の持ち物リスト
- 汗拭きタオル・濡れたおてふき
- 水筒・お弁当
- レジャーシート
- オムツ・おしりふき
- 着替え一式
- 靴・靴下の履き替え
- 帽子・日傘
- 日焼け止め・虫除け・かゆみ止め
- カメラ・筆記用具 等

(取材・文/鈴木敏江)

「移り変わりの激しい六本木にあって、ここだけは変わらないわね...と古くからのお客さまに笑顔で言われるとうれしいですね」
麻布青野総本舗 六代目店主 青野輝信さん



子どもに生きていく力を親子で読んでみよう KIDS' ハローワーク



今回は、日本の四季を彩り、伝統文化を今に伝える「和菓子屋さん」がテーマ。六本木の地で150年以上続く和菓子の老舗「麻布青野総本舗」の六代目店主 青野輝信さんを訪ねました。

「和菓子づくり体験付き」という魅力的な企画に、今回は茜ちゃん、大智くん、響ちゃん3人のジュニア編集員が気合たっぷり取材に同行しました。

どんなお仕事をされていますか？

材料の仕入れ、季節毎のお菓子づくり、販売の工夫まで幅広いですね。お菓子づくりのための技術だけでなく、接客、経営にいたる、トータルな仕事です。

味には妥協せず 試行錯誤



デリケートな仕上げ作業に挑戦。とても親切にご指導いただきました。

どうすれば和菓子屋さんになれますか？

私の場合は家業だったので、幼少のころからお店が遊び場であり、お手伝いの場でした。小学校3年生くらいからあんこを丸めたりしていたと思いますよ。大学進学にあたっては「経営学部」を選び、幅広く勉強しました。卒業後、「お菓子の専門学校」に入り和・洋菓子の基礎知識を体系だてて学びました。その後さらに京都のお店で修行しました。お菓子づくりの工程や材料の呼び方といったものは地方によって違い、初めは戸惑いました。同じ材料でも産地やつくった人によって微妙に色とか味も違うんですよ。食べ続けているとだんだんわかってきて、こだわってしまいます。和菓子職人になるのに特別な「資格」というのはありません。お店をやっていくために「製菓衛生士」の資格を取りましたけどね。

和菓子って何種類くらいあるんですか？

季節や歳時記に合わせて、年間300種類くらいつくりまます。定番の「どらやき」とか「水羊羹」とかも、食感の好みの変化を考慮して、少しずつ配合量や泡立て方、材料の産地などを変えたり、

と試行錯誤します。職人同士でもめることも結構ありますね(笑)。新タイプのお菓子づくりのアイデアを出すためには、意識しているいろいろなものを見るようにしています。何かできないかなー、と。どんなお仕事でも、日頃からアンテナを立てておくことは大事でしょう。

和菓子屋さんを目指す後輩にアドバイスを。

今日皆さんにやっていただいたのは「楽しい」仕上げの工程ですが、本当は長く修行を積んだ上の位の職人がやる仕事です。実際の仕事は早朝からの下ごしらえに始まります。砂糖袋は20kg以上あるし、大きな釜は子どもの背より高いし、100℃より高い温度で沸騰するあんこを夏でも混ぜなければなりません。きっと筋肉がつくでしょう！体力が必要ですけど、女性でがんばっている人もいますよ。

柔和に語るお人柄ながら、最後にはお仕事の厳しさをしっかり教えて下さった青野さん。「ココで働きたい!」、茜ちゃんの内なる情熱に火が付いた瞬間でした。

(取材/石山恒子、石山 茜、鈴木大智、大村公美子、大村 響文/大村公美子)





アルゼンチン共和国
 面積：約 380 万平方キロメートル（南極の部分及び南端の諸島の面積を含む）
 人口：3,950 万人（2007 年世銀）
 首都：ブエノスアイレス（Buenos Aires）
 民族：白人（85%）、混血（10%）、インディヘナ系その他（5%）
 言語：スペイン語
 宗教：カトリック
 政体：立憲共和制
 元首：大統領（クリスティーナ・フェルナンデス・デ・キルチネル）
 （任期 4 年、1 回限りの連続再選可）
 議会：二院制
 （上院 72 議席、下院 257 議席、共に任期 4 年。上院議長は副大統領が兼任）
 外務省ウェブページ
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/argentine/data.html>
 アルゼンチン政府公式 HP
<http://www.argentina.gov.ar/argentina/portal/paginas.dhtml?pagina=1470>
 アルゼンチン政府対外関係国際商務省公式 HP
<http://www.cancilleria.gov.ar/portal/index.html> より

取材協力/アルゼンチン共和国大使館

麻布の"世界"から



Argentina

アルゼンチン `情熱の国、……大自然、スポーツ、タンゴ、ワイン、アート



アルゼンチン共和国は南米大陸にあり、パタゴニア山脈を背に大西洋に接し、南北約3,800km、国土は日本の7.5倍、南端にあるフェゴ島とマゼラン海峡は南極に近い。人口は4,000万弱でヨーロッパから移住した人々が多く、ブエノスアイレス等の都市はモダンなビルが建ち並ぶと共にヨーロッパの伝統的建築を残している。他方、イグアスの滝、パタゴニア、草原、塩田、氷河、溪谷、火山など、南北に広がる国土全体には、一度は見てみたい雄大な自然がそのまま残されている。

ちょうど取材の前日にアルゼンチン出身のプロゴルファー、アンヘル・カブレラがマスターズゴルフを制覇したので、ご挨拶の際に優勝のお祝いを申しあげた。ダニエル D. ポルスキ特命全権大使は、差し出した取材陣の手を握りながら「アルゼンチンには 240 あまりの素晴らしいゴルフコースがあって、観光と合わせたゴルフツアーも人気なのです。」と答えてくださった。さらに「アルゼンチンはバスケットやラクビーなど、チームワークのスポーツも強いのです。」と付け加えられた。確かにアルゼンチンは、セリエ A で活躍したガブリエル・パティストウータのように世界で活躍する多くの有名サッカー選手を輩出している。

ゴルフツアーに加え観光は実に多様で、自然豊かな国ならではの登山、トレッキング、カヌー、マウンテンバイク等のエコツーリズム、アドベンチャーツアーを始めとして、文化やワインツアーも楽しめる。特に品質向上に力を注いできたワインは輸出にも大きく貢献し、各地のワイナリーを訪ねる旅も好評だ。おとなりの国々もワインで競い合っているが、生産量はアルゼンチンが多いのだそうだ。

アルゼンチンの音楽やダンスで一番なじみ深いのは、何といても蛇腹の楽器、バンドネオンの音色と歌とダンスで心ゆさぶられるアルゼンチンタンゴである。男と女の嘆きの歌詞が多いのだが、ただの嘆きではなく、その根底を裏打ちしているのは人間の生きることへの深い情念であり、パッション（情熱）なのだという。最近若い人達にも流行し始めており、タンゴを楽しむ場所が増えているらしい。もっとも大使ご自身は、「私たちの世代はロックに夢中



だったから、若い頃にタンゴをそんなに楽しんだというわけではないのですよ。」といたずらっぽく微笑んでおられた。

近年、アルゼンチンはデザインやアートなどに力を入れていて、多くの優秀なデザイナーを生んでいる。大使館に置いてあった椅子、そして工芸、絵画、革細工、ファッションなど、とてもモダンで優雅な作品が展示されていた。今回は大使じきじきに、隣接する大使公邸にもご案内していただいた。公邸に飾られているデザイナー、パトリシア・ラスカノの金工と木で作られた一対の「フルーツかご」は、シャープな作品であるが工芸品としても優れ、蒼穹の星空に吸い込まれて行くような空想をいだかさせてくれる。

最後に麻布についておうかがいした。コスモポリタンでありながら歴史を感じさせる神社等が多くあるところが街の魅力で、忙しいスケジュールをぬって散歩をなさっておられるらしい。ちょっと表通りから外れると、おしゃれな小道を発見できたりするところが、首都ブエノスアイレスに似ていて素敵だという言葉をいただいた。

物理的距離も決して近くないアルゼンチンに日本人は古くから魅せられてきた。それはきっと日本にはない、この国のエネルギーとパッションに魅かれてきたからなのだろう。まさに「Love at the First Sight」の国だ。もっとこの国について知りたいという方は、大使館に返信用封筒と切手を送れば日本語のパンフレットを送ってくれる。ワイングラスを片手にタンゴを聴きながら、しばし情熱の国に酔いしれてみてはいかがでしょうか？

（取材/石山恒子、事務局・稲村美穂、尾崎恭彦、加藤智恵、湊早苗、森明文/加藤智恵、森明）

- 1 明るく気さくなダニエル・アダン・ポルスキ大使。日本での駐在は今年で5年目になる。
- 2 デザイナー：イングリッド・グトマンデザインのウマワカブランド、上質な皮製のサドルバック
- 3 左下：オーガニックな素材を使ったハンドメイドスツール、右上：皮製小物入れ・貯金箱、右下：テキスタイルデザイナー作のマテ茶道具
- 4 パトリシア・ラスカノの金工と木で作られた一対の「フルーツかご」

Azabu-nista

麻布で働く外国人レポート



藍染め雑貨「BLUE & WHITE」owner
Amy Katoh



日本古来の伝統美、藍染めの美しさに魅了され、麻布十番にお店を開いて30年以上。浴衣にする生地からコースターやフォトアルバムなどの雑貨に至るまで、日本的なセンスが光る商品がスラリと並ぶ。



素晴らしい日本伝統文化を継承していきたい。

麻布十番の Patio から大黒坂を上り始めると、左手に「BLUE & WHITE」という藍染め雑貨のお店があります。オーナーはアメリカ生まれの加藤えいみーさん。

40年以上も前に来日し、1975年にこの地にお店を開きました。手作りのぬくもりがある日本伝統の藍染めを中心とした品々。お店には手ぬぐいやクッションカバーからタペストリー、ワンピース、ネクタイなど遊び心たっぷりの商品が並びます。加藤さんは日本の伝統美に魅かれ、30年以上も私たちの生活の中に溶け込む品々を提案し続けています。



長く麻布に暮らし、さまざまな人たちとの交流を楽しむ加藤さんは、近所付き合いも積極的。お店でミーティングをしたり、近くの焼き鳥屋さんに行ったり。ここ麻布十番はとても気に入っている様子です。毎月第一土曜日にPatioで開かれる“蚕の市”に出かけるのも楽しみのひとつだとか。その他にも日本中を旅して各地の蚕の市に行ったり、日本古来の文化・伝統に触れ

るのが大好きとのこと。日本食もお気に入りです。肉じゃがやお鍋などはよく家で食べるとか。最後の晩餐は、もちろん“しゃぶしゃぶ”だそうです。

『日本の良いところ、すなわち優しさや行儀の良さ、遠慮といったところは素晴らしい。日本人はもっと自信を持ってもらいたいし、文化を大切にすべき。私はこのような日本文化を絶やさずに継承していくためにお手伝いがしたいと思っています。温故知新、日本の古来に学ぶことはたくさんありますよ』と加藤さんは巧みな日本語で応えてくれました。

かつて加藤さんは“JAPAN STYLE”を世界で紹介した書籍を出版しました。日本古来の藍染めをインテリアの中に取り入れた写真集は、ひとつのトレンドを生み出しました。加藤さんは外国人に日本の伝統美を紹介した先駆者でもあったのです。1996年に初出版して以来、4冊の本を世界に発信しています。いまま2冊の新しい本を製作中とのこと。これからも本物との出会い、真剣に取り組む職人との出会いを大切に、お客様との接点を築いていきたいとのことでした。

(取材・文/尾崎恭彦)

地域社会 の ゆくえ

1

町会・自治会って何をするとところ？

あなたは、隣近所の方を何人ご存知ですか？そもそも町会・自治会って何でしょう？役所と連携しながら、その地域の様々な問題のとりまとめをしている自主的な自治組織と言われてます。港区には230団体を超える町会・自治会があるんですよ！

町内会、町会、自治会など呼び方は色々ですが、違いはありません。言ってみれば、おにぎりとおむすびのようなものです。(以降「町会」に統一)

町会へは必ず参加せよ、という義務や強制はありません。めんどくさい、近所付き合いが苦手、お酒の席が多そう、など敬遠する人が多いのも事実です。

ですが、自分の家の周囲を見回してみてください。防災、防犯、防火、交通安全、清掃、防犯灯の維持管理などすべて町会で行っているのです。「安心して暮らせる街」を目標に、地域住民による地域住民のための活動は、実に地道です。つまりは、各人のボランティアに支えられているのです。

いま町会・自治会に注目です！



もし隣近所それぞれが、地域のことに無関心だったら、道にゴミが溢れ、落書きが増え、防犯灯は消えたり点いたり、あつという間に荒れた状態になり得ることは容易に想像できます。

麻布が住み心地のよい街であり続けるためには、住民の私たちの誰かが、小さなことから始めなければならないのです。面倒なことも、安全で気持ちよく暮らすために、地域住民同士で支え合う必要がありますね。

ご存知ですか？ あなたの地域の町会・自治会

町会では地域住民と一緒に楽しむイベントもたくさんあります。例えば、南麻布1丁目、仙台北の南側「麻布竹谷町」の町会はHP (<http://www.takeyachou.jp/>) で活動内容をわかりやすく記して、参加者を募っています。HPの管理人を務める大塚明さんは「コンセプトは『家族が暮らしやすい町と一緒に作りませんか?』です。HPを覗いて、

イベントにちょっと参加してみようかな、と思ってくれば嬉しい」とおっしゃいます。

今春から東町小学校と協力して「ひがしまち和太鼓クラブ」を発足。小学生からお年寄りまで誰でも参加でき、大好評です。もちろん麻布竹谷町会の会員でなくても、参加OK。今後の練習日などHPで確認できます。

そして、楽しいイベントといえば秋恒例のお祭り。今年は9月12(土)13(日)。「祭りへの参加は親睦を深める絶好のチャンスです」と大塚さん。もし自分の町会がわからなければ、区に問い合わせましょう。まずは参加の一步から、です。

問い合わせ先/
麻布地区総合支所 協働推進課 活動推進係
電話/03-5114-8802
ファックス/03-3583-3782

※参考文献 中田 実 他3名共著
「町内会のすべてが解る疑問難問100問100答」
(じゃこめてい出版)

写真/麻布竹谷町会提供 (取材・文/浅川一枝 高柳由紀子)

港区六本木一丁目9番地(旧麻布市兵衛町一丁目11番地)は、幕末、陸奥八戸藩(青森)南部遠江守のお屋敷であった。明治維新後に皇族賜邸地になり、^{せいかにんのみや}静寛院宮邸、後に麻布御用邸、さらに^{ひがしくにのみやなるひこ}東久邇宮稔彦邸になった。静寛院宮(1846-1877)は幕末から明治時代の悲劇の人として、東久邇宮(1887-1990)は大正から昭和時代に波瀾万丈、話題多き人として知られておられますが(註1)、御二人は、時代の違いがあっても日本の転機にご登場され、奇しくも大きな使命をはたされました。

麻布の軌跡

旧麻布市兵衛町物語

(宮様のお屋敷用地)

静寛院宮邸と東久邇宮邸

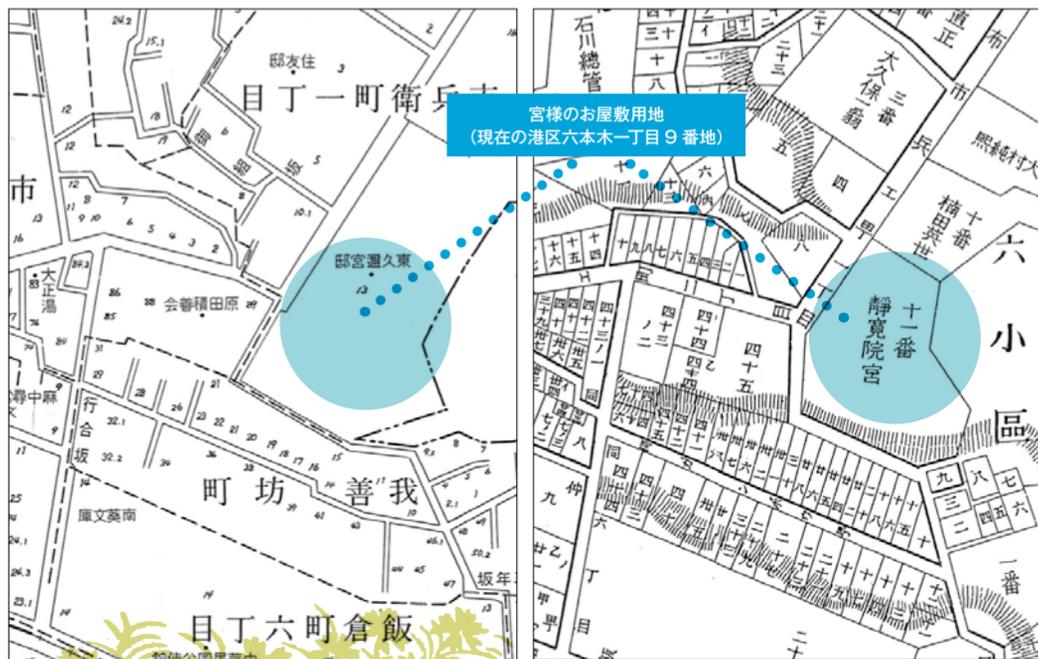
徳川家存続に尽くされた静寛院宮

公武一和のために、有栖川^{たるひと}熾仁親王との婚約を取りやめられ、文久元年(1861)に和宮親子内親王は、徳川家茂公に嫁ぐために京都より今の北の丸公園近辺の江戸城内の清水徳川邸に入られ、翌年江戸城において御結婚された。(註2)家茂公が大阪城にて享年21歳で亡くなられた後、和宮は落飾^{せいかにんのみや}され静寛院宮と称された。

徳川家茂公は清水徳川齊彊^{なりかつ}のご養子となり、13代紀州藩主、後將軍とられた。和宮様とのご結婚生活は4年余と短かったが、誠実な愛情を示され、和宮様にべつ甲の簪や絞り染めの衣裳を贈られ、上洛の折にはしばしば文を交わされている。(註3)和宮が家茂公への文に「一旦、徳川氏に嫁した以上は、徳川氏の為に生命をすてる…」とお書きな^{りんこ}った凛乎さに、晩年勝海舟はそのお人柄を「上品で、それで利口」と語っている。(註4)

慶応4年(1868)徳川慶喜公が伏見鳥羽の戦に敗れた後、静寛院宮は家名の存続のためにご尽力をされた。侍女士御門藤子に託し、静寛院宮縁故の公家へ手紙を届け、嘆願の結果、徳川が謝罪の実を現わせば徳川家を存続させるとの天皇より内旨を頂き、その後、徳川家は家達公が相続し、駿河70万石に封じられた。(註5)

同年4月、清水邸に移られ、その後、明治2年に京都、聖護院に帰られた。しかし、明治7年、家茂公のお墓が芝増上寺にあり、明治天皇も旧江戸城にお移りになられた事もあり、増上寺の屋根瓦の望める麻布御殿に入られた。(註6)



「港区立港郷土資料館」所蔵資料 左：近代沿革図集 昭和8年 右：近代沿革図集 明治9年

麻布宮邸での静寛院宮は徳川家達公に会われ、天璋院様をご招待せられた。また明治天皇、皇后宮、皇太后宮がしばしば静寛院宮邸にお出ましになられている。明治9年(1876)5月5日、天皇、皇后宮の行幸の折に、宮様にお土産として双幅掛物、花瓶、折詰菓子料理一組等をお持ちになり、梅若、観世、宝生、金剛の蘆刈・望月等の演能をご覧になり、夜討曾我、船弁慶、仕舞等を親子内親王と共に楽しみ、くつろがれた。(註7)

静寛院宮は、脚気の転地療養中に明治10年(1877)9月2日箱根塔ノ沢にてご逝去、享年32歳であられた。(註8)

戦後復興の歩みを進めた東久邇宮稔彦親王

明治39年(1906)に久邇宮家から東久邇宮家を創立された東久邇宮稔彦親王は、大正3年(1914)、麻布の御用邸に住まわれた。翌年、明治天皇の第9皇女泰宮聡子内親王とご結婚された。陸軍大学校を卒業、大正9年(1920)フ



現在の六本木一丁目

ランスの陸軍大学等に留学され、7年間お過ごしになられた。絵がお好きな宮様は、在仏中に睡蓮の絵で有名なクロード・モネをパリ近くのアトリエにしばしば訪ねになり、又モネと親しい政治家ジョルジュ・クレマンソーからパリの講和会議の話聞き、外交に国際的な知識の必要性を強く感じられた。(註9)パリで易者に大動乱の時に総理大臣になると手相から予言された。(註10)

昭和16年(1941)12月太平洋戦争勃発。昭和20年(1945)4月15日午後10時40分、東京空襲警報発令、戦災で麻布東久邇宮邸の東南隅から火がつき、廊下、寝室、応接間、書斎、家全体が焼失し、欧州留学中の記念品、写真、宮が書かれた絵画もすべて失った。(註11)

昭和20年8月15日終戦となる。8月16日吹上御苑内のお文庫で天皇陛下から「…内閣組織を命ず。…時局の收拾に努力せよ」のお言葉を東久邇宮は頂戴し、皇族の義務と考え、内閣総理大臣に就任、18日組閣、終戦処理に当たられた。

9月2日重光葵外相がミズーリ号艦上で降伏文書に調印、さらに復員処理などに着手した。しかし、同年10月5日内閣総辞職。短命内閣であったが、「在職50日、私はその短かったことを憾みとしない。私は自分の力が足らなかったことを恥じ入るのみである」と東久邇宮は書いておられる。(註12)昭和22年(1947)10月皇籍離脱され、平成2年(1990)1月にご逝去、享年102歳であられた。

両宮様の御人柄によってこのような来歴を持った旧麻布市兵衛町のこの地は、今も一部が国有地となっている。

(註1) 鈴木 博之著 東京の[地霊] p16 (文芸春秋)
大久保 利謙監修 日本の肖像 p47 (毎日新聞)
東京市麻布区役所 麻布区史 p899
(註2) 宮下 信治他編 皇女和宮 和宮の生涯 p163 (東京江戸東京博物館)
(註3) 宮下 信治他編 前掲書 激動の世を駆けぬけた將軍 p170-173
(註4) 巖本 善治編 海舟座談 p73、p336 (岩波文庫)
(註5) 日本史籍協会編 静寛院宮御日記(二) 解題p625-626 (東京大学出版会)
(註6) 桑原 隋旭著 静寛院宮日誌 p287-291 (増上寺御蔵版)
(註7) 宮内庁著 明治天皇紀第三 p391-392、p596-597 (吉川弘文堂)
(註8) 宮下 信治他編 前掲書 和宮の生涯 p165
宮内庁著 明治天皇紀第四 p253
(註9) 鈴木 博之著 前掲書 p19
東久邇宮稔彦著 私の記憶 p7、p10-p11 (東方書房)
(註10) 東久邇宮稔彦著 東久邇日記 p209-210 (徳間書店)
(註11) 東久邇宮稔彦著 前掲書 p185-186 (徳間書店)
(註12) 東久邇宮稔彦著 前掲書 p206-207、p246 (徳間書店)
東久邇宮稔彦著 前掲書 p246-247 (東方書房)

Living in AZABU

“夏、今年の夏は。” 夏が、やって来る。ことしの夏が。どんな夏になるかしら?! 楽しみね。とっても★

夢に見るチベットやアルゼンチンの夏って、どんなだろう?
東京湾の空には夏の雲の嶺が連なる。

で、私の Idea。トマトのお料理、フレッシュさを生かして。ちょっと自慢はバナナジャムと Olive Oil Paste を作った。“ウッ! ウマイ!!” 等と、にやつく。

幼なじみの和ちゃんは、すてきな広いテラスでハーブをたくさん育てていて、いつもそれでブーケを作って“どうぞ”とプレゼントしてくれる。

まず、しばしテーブルにグラスに入れて、あ〜いい香り。

彼女の作るハーブティーは、いちばあんおいしい!! いつもありがとう、和ちゃん。

お洋服は淡い Blue に色あせたジーンズで、ベア・トップのワンピースを作ろう。
かっこよくな。レイシーなカーディがあれば cover 出来るしね! アハハ〜。

夏は Tシャツ。超憧れのすてきなあの方のイニシャルをプリントしたのを作りたいんです♡

あ〜夏が来る。晴れた日々が続く時、弟のたっちゃんに逢いに行こう。

今、気に入っているおいしくて、ちょっとやめられない

Soft Caramel Waffles をおみやげにして。

すてきな、でも“静かな幸せ”の(どうということ?!)、

そんな夏になりますようにと、想いをこめて。

お元気にお過ごし下さいね。ALOHA.



(イラストレーション・文/湊 早苗)



「あざぶ達人倶楽部」の参加者を募集します!

麻布地区の魅力をもっと高めていく活動を担える人材を応援・発掘する「あざぶ達人倶楽部」を開催します。

今年度は初級講座として、麻布に関わる歴史、特色、まちの様子などを「座学」や「歩学」などを通じて、学んでいただきます(講座修了者には認定証をお渡しします)。

将来的には、「麻布の達人」となれた方々が、麻布をより魅力的にするための自主的な活動を展開できるようめざしていきます。なお、来年度以降は、初級講座修了者に対し、中級・上級へとステップアップしていくコースを予定しています。

対象: 20歳以上で、麻布地区に興味のある方(在住・在勤・在学を問いません)

会場: 麻布地区総合支所ほか

定員: 30人(申込順)

※一時保育も行います。
(定員制・申し込み時にお申し出ください)

参加費: 無料

(ウォーキング中の休憩時の飲食は各自負担)

お申し込み

6月30日(火) までに電話で、みなとコールへ。

電話 / 03-5472-3710

※申し込み時に、すでに定員に達している場合はご了承ください。

お問い合わせ / 麻布地区総合支所

協働推進課地区政策係

電話 / 03-5114-8812

「あざぶ達人倶楽部」初級講座プログラム(全6回)

※プログラム内容は変更される場合があります。

	日時	内容・講師
第1回	7月15日(水) 【座学】 午後6:30~8:30	◆開校式 オリエンテーション ◆講演 「麻布地区のおいたち」 (港郷土資料館学芸員)
第2回	7月25日(土) 【歩学】 第1部 午前9:30~午後0:30 第2部 午後1:30~4:30	◆麻布ウォーキング① ※第1部と第2部は同じ内容です。
第3回	7月29日(水) 【座学】 午後6:30~8:30	◆まち人ディスカッション 「麻布のいま、そして未来」
第4回	8月8日(土) 【歩学】 第1部 午前9:30~午後0:30 第2部 午後1:30~4:30	◆麻布ウォーキング② ※第1部と第2部は同じ内容です。
第5回	8月19日(水) 【座学】 午後6:30~8:30	◆スライドショー 「昭和の麻布」 ◆参加者わいわい懇談会
第6回	9月2日(水) 【座学】 午後6:30~8:30	◆閉校式 ◆あざぶ達人倶楽部初級認定証授与 ◆講演 (麻布ゆかりの著名人を予定)

東京都議会議員選挙

7月12日(日)
午前7時~午後8時

投票日当日、旅行やレジャー、仕事等で投票に行けない方は、期日前投票をご利用ください。

期日前投票期間

7月4日(土)~7月11日(土)
午前8時30分~午後8時

忘れずに
投票してね



読者の皆さん、ご意見ください。

本紙記事の感想や取り上げてもらいたい情報など、何なりとお寄せください。より魅力的な紙面にするための参考にさせていただきます。



ご意見をお寄せいただいた方に麻布オリジナルグッズ「旧町名手ぬぐい」プレゼント!

「ザ・AZABU」では読者の皆様からのご意見・ご感想を募集しています。

ご住所・氏名・年齢・職業をご記入の上、下記までご応募ください。

●電話で.....03-5114-8812(月~金/午前9:00~午後5:00)

●ファックスで.....03-3583-3782

●郵送で.....〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所「ザ・AZABU」編集室宛



麻布地区 総合支所だより

総合支所からの お知らせ

平成 21 年度 「麻布を語る会・基本計画協働 推進」分科会メンバーを 新たに募集します。

区では、今年 2 月に、区政全般の総合的な計画である「港区基本計画」を策定しました。このうち、麻布地区で策定した「麻布地区版計画書」の内容を着実に推進していくため、計画書の内容や事業に関する学習会、施設見学会に参加し、計画の達成状況等を区とともに検証していくメンバーを募集します。

対象 麻布地区在住・在勤・在学者および麻布地区のために活動したい人で、月 1 回程度平日夜間の会議に出席できる人

内容 「麻布地区版計画書」等をもとにした、区の施策や事業についての学習会、地区の課題抽出等

活動期間 原則として平成 21 年 7 月～平成 22 年 3 月

申し込み 住所・氏名・職業(学校名)・電話番号・希望する理由(字数・様式自由)を書いて、直接または郵送またはファックスで、6 月 30 日(火・必着)までに、〒106-8515 港区六本木 5-16-45 麻布地区総合支所協働推進課地区政策係へ。

お申し込み・お問い合わせ
麻布地区総合支所協働推進課地区政策係
電話 / 03-5114-8812
FAX / 03-3583-3782

第2回ワールドアミティゲームズ 参加者募集!

日本有数の国際都市「港区」で、「国際交流」を兼ねたバレーボール大会を開催します。めざせ草の根世界一! 皆さんお気軽にご参加ください。
日時 / 8 月 1 日(土)

午前 9:00 より開会式開始
会場 / 大会: 区立六本木中学校体育館
表彰式、レセプション: ホテルアイビス

参加チーム数 / 応募による 12 チーム
(最大 16 チーム) 応募多数の場合は、抽選参加資格 / ○男女混合チームであること

- 1 チーム 20 人まで登録可能
- 登録メンバーの男女比の制限はありませんが、コート上には必ず女子選手が 3 人以上いること

参加費用 / 1 人 100 円 (傷害保険費用を含む)
※レセプションの飲食費用は自己負担
応募の締め切り / 6 月 30 日(火)までに、E メールまたはファックスで、実行委員会へお申し込みください。

申し込み・お問い合わせ
ワールドアミティゲームズ実行委員会
特定非営利活動法人 Club Tom 内 担当: 田中伸篤
FAX / 03-3454-9826
電話 / 090-6546-2488 (携帯)
E メール / wag.inq@live.jp
URL / http://worldamitygames.otodo.net/

麻布地区でボランティアを 体験する外国人を募集します。

地域のボランティア活動に参加して、麻布地区をもっと知ってみませんか? 活動中は、英語の通訳がつかます。地域の活動に興味がある方、地域の情報を共有したい方など、ぜひご参加ください。

対象 港区在住・在勤・在学またはボランティア活動に興味のある 20 歳以上の外国人
日程 平成 21 年 8 月から月 1~2 回程度夕方から夜間にかけて行います(約 1 時間)。
※日程については後日連絡します。

活動場所 六本木交差点周辺
内容 環境美化活動、パトロールなど。
※報酬はありません。

申し込み 7 月 10 日(金)までに
電話で、みなとコールへ。

電話 / 03-5472-3710

お問い合わせ
麻布地区総合支所協働推進課地区政策係
電話 / 03-5114-8812
FAX / 03-3583-3782

ねずみ防除に有用な本・ビデオ・ DVD をお貸しします。

- 本
 - ・安心の《医・食・住》環境づくりのための「ねずみ駆除」の手引き
 - ・飲食店における「ねずみ駆除」の手引き
 - ・ビルの防鼠構造・工事 マニュアル
 - ・都市のネズミによる被害実態
 - ・家ねずみ用語事典

- ビデオ・DVD
 - ・(やさしく学べる衛生ビデオ) ねずみと衛生害虫 応用編 1 調理場のネズミ防除
 - ・(やさしく学べる衛生ビデオ) ねずみと衛生害虫 応用編 2 調理場のゴキブリ防除
 - ・(やさしく学べる衛生ビデオ) ねずみと衛生害虫 応用編 3 調理場のハエ防除

貸出期間 / 2 週間程度

お問い合わせ
麻布地区総合支所協働推進課地区政策係
電話 / 03-5114-8812

港都税事務所からの お知らせ

6 月は固定資産税・都市計画税 第 1 期分の納期です。

今年度の固定資産税・都市計画税の納税通知書は、6 月 1 日(月)にお送りしました。お近くの金融機関・郵便局、指定のコンビニエンスストア、または都税事務所の窓口で、6 月 30 日(火)までにお納めください。

お問い合わせ / 港都税事務所
電話 / 03-3453-3211(代)

編集後記

一年の内で木々の緑が一番鮮やかで美しい季節を迎えました。隣近所の玄関先や、塀越しに見える美しい花々に見とれて迷路のような麻布の路地裏を散策してみるのもこの季節楽しいものです。本年度から AZABU 編集部員に新しいメンバーが加わりました。また新しい視線での麻布を皆様にご紹介できることと思います。ご期待ください。

(橋本明子)

みなとボランティア センターからのお知らせ

第 29 回「共に生きるみんなの歌 と踊りのつどい」を開催します。

歌やダンス、詩の朗読などを通じて、障害者もボランティアも参加する皆さんが「感動」・「元気」・「楽しい」を味わえるイベントを今年も開催します。地域の皆様のお越しをお待ちしています。

日時 / 平成 21 年 7 月 11 日(土)
午後 1:30~4:00

会場 / 麻布区民センター 地下ホール

内容 / 区内の福祉施設団体及びボランティアグループ等による歌・ダンス・詩の発表

入場料 / 無料

お問い合わせ /
港区社会福祉協議会みなとボランティアセンター
電話 / 03-3431-2081

麻布消防署からの お知らせ

大切な命を守る住宅用火災警報器

火災を早期に発見する住宅用火災警報器(=住警器)。

みなさんの家では、もうつけましたか? 以前は、大きな共同住宅など一部の住宅だけが義務化されていましたが、東京都では、平成 22 年 4 月 1 日から、すべての住宅に設置が義務となります。大切な命を守るため住宅用火災警報器をつけましょう。



もっと知りたい住警器! 教えて Q&A

<p>どんな種類があるの?</p> <p>「煙」に反応するものと「熱」に反応するものがあります。</p>	<p>どこで買えばいい?</p> <p>ホームセンター等にもありますが、品質を保證する NS マークが付いているものを選びましょう。</p> <p>このマークが目印です!</p>	<p>どこに設置するの?</p> <p>すべての居室、台所、階段に設置します。</p>
---	--	--

お問い合わせ / 麻布消防署予防課防火管理係
電話 / 03-3470-0119

麻布警察署からの お知らせ

バイクによるひったくりが 多く発生しています。



- 後方から近づくバイクの音には十分注意しましょう。
 - バッグなどは建物側に持って、明るい道を歩きましょう。
- 犯罪のない安全で安心なまちづくりにご協力をお願いします。

オウム真理教による 犯罪被害者の皆様へ

現在、オウム真理教による犯罪行為で被害を受けた方又は、ご遺族に給付金請求の受付を行っています。

申請期間 / 平成 20 年 12 月 18 日~2 年間

オウム真理教による犯罪行為により次の方々が給付金支給の対象となります。

- 亡くられた方のご遺族
- 障害が残った方
- 傷病を負った方

お問い合わせ / 麻布警察署
電話 / 03-3479-0110 (代)

AZABU

●配布設置場所ご案内
六本木 1 丁目、六本木、広尾、麻布十番の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書サービスセンター、麻布福祉会館、西麻布福祉会館、飯倉福祉会館、本村福祉会館、大平台みなと荘、麻布区民センター、麻布地区総合支所等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Chief 尾崎恭彦
Sub Chief 伊東みゆき
Staff 浅川一枝 鈴木敏江 湊 早苗
石山恒子 高橋 光 森 明
伊藤志織 高柳由紀子 山下良哉
大村公美子 西野さつき
加藤智恵 橋本明子
Junior Staff 石山 茜 鈴木大智
大村 響

港区は、みどりの保全とごみの減量に努めています。

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽にお問い合わせください。
年中無休 / 午前 7:00 ~ 午後 11:00 ※英語での対応もいたします。

電話 / 03-5472-3710 FAX / 03-5777-8752
Eメール / info@minato.call-center.jp

“Minato Call” information service
Minato call is a new city information service, available in English every day from 7 a.m. - 11 p.m.
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752; E-mail: info@minato.call-center.jp